

雌阿寒岳（1499m）日本百名山

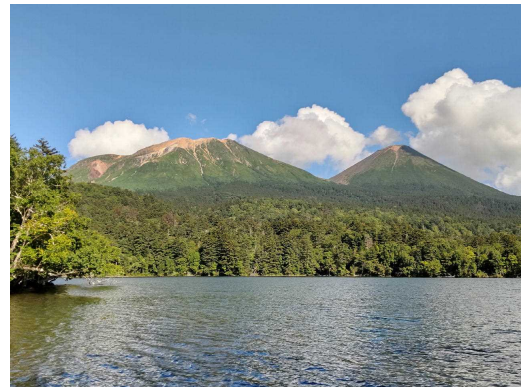
2023年8月26日 Shiba

国の天然記念物のマリモで有名な阿寒湖をはさんで雄阿寒岳と雌阿寒岳が対峙している。比較すると、雄阿寒岳はてっぺんまで緑に覆われた優しさを感じる山。一方、雌阿寒岳は活火山であり硫黄のにおいが立ち込める赤茶けた荒々しい勇猛な山。このため雌雄が逆転した感じを受ける。そして阿寒富士は雌阿寒岳の脇を守る従者のように見える。

コロナの後遺症のためか関西空港からの釧路便は毎日の運行はなく週4便のみ、しかも12時を過ぎてからの便のため、空港からレンタカーで直ぐに出発しても前泊の山の宿野中温泉への到着は夕方になってしまった。山の宿野中温泉は硫黄のにおいが漂う中にあり、隣にはトイレの完備された公共の駐車場もある。

雌阿寒岳温泉登山口は宿の北側にある駐車場の隣にある。登山届は北海道の山によくあるノート式の記帳になっている。当日の入山者の数を数えると5時20分ごろから筆者が入山する8時10分までの間で30組を超える程で、土曜日だとしても結構な人出である。

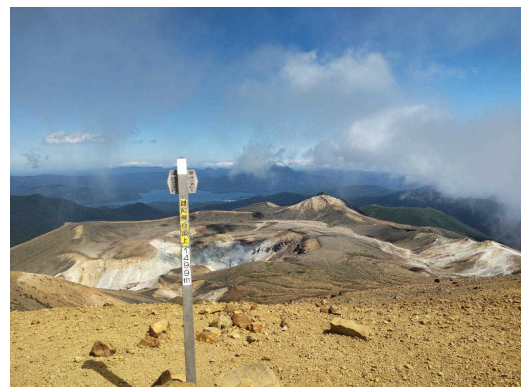
スタートして30分ぐらまでは木の根っこがびこる歩きずらい道である。1時間程で3合目の標識、休憩によいタイミングである。3合目を過ぎると今までのアカエゾマツ主体の植生からハイマツ主体の植生にガラリと入れ替わる。それでも4合目ぐらまではハイマツも人よりも背が高くトンネルのようになっているので夏の強い日差しを遮ってくれているので大助かりだ。ハイマツも背丈が低くなり周りを見渡せるようになるとハイマツの中に点々と巨石が転がっている。この光景は屋久島の縦走路で出くわす光景とよく似ている。ハイマツ帯は8合目ぐらまで続き、それ以上はガレ場の地形になる。火口縁に達するところが9合目である。ここから山頂までは火口縁沿いの砂礫の道を登るが少し行くとお釜を覗ける箇所がある。噴気音も聞こえ、火口縁内側のほぼ垂直



雌阿寒岳（左）と阿寒富士（右）



雌阿寒岳温泉登山口



雌阿寒岳頂上の標識

に深くえぐられた光景をみている何となく足がすくむ。更に登り雄阿寒岳が見えるようになると様相が一変する。雄阿寒岳の方向にも火口群がひろがり黄色、白色、ベージュ色の生命の存在感のない月面のような雄大な光景が広がっていく。山頂には 11:15 に到着、風は強いが天候には恵まれた登頂であった。



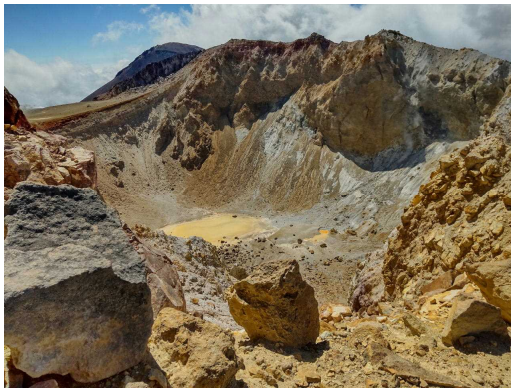
巨岩がゴロゴロ

雌阿寒岳は駐車場など登山口がよく整備されていること、所要時間も短くてすむこと、複合火山帯の見ごたえのある景観を楽しむこと等、大雪山系の旭岳は別格として、人出も多く人気の山である理由が解る。また宿を出発する際に、宿の方に熊の出没のことを聞いてみた。直接の目撃情報はないが、熊の足跡や糞の目撃情報はありますのでとのことであった。

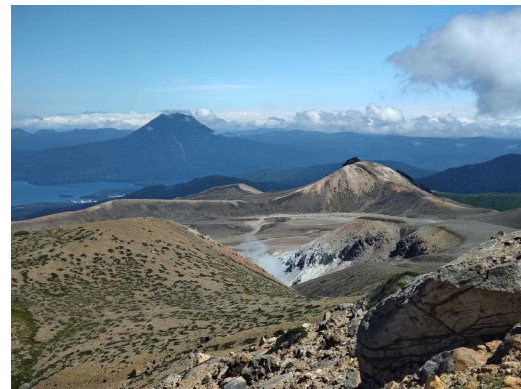
◆メンバー：S、他 2 人

◆コース：雌阿寒岳温泉登山口 8:10～5 合目～雌阿寒岳～雌阿寒岳温泉登山口 14:15

◆所要時間／歩行時間： 6 時間 05 分／5 時間 10 分



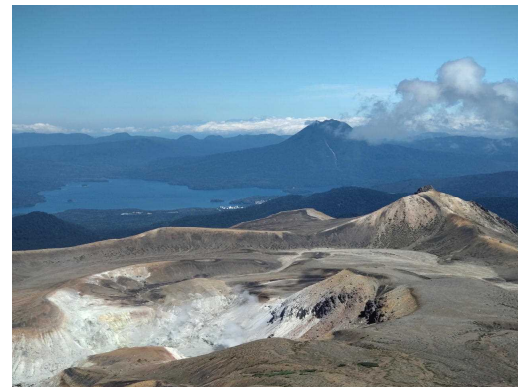
お釜を覗く



9 合目を過ぎてから一変した光景



最後の登り



頂上より阿寒湖を挟んで雄阿寒岳を望む